令 和 6 年 度

領 域 演 習 指 針

この演習指針は各領域の曜日，校時毎に記載をしておりますので間違いないようにご注意ください。
領域順は国際ビジネス領域，地域デザイン領域，社会イノベーション領域の順です。
曜日，校時の順は 1：月曜 4 限開講，2：火曜 4 限開講，3：2Q 月曜 4，5 校時，4：2Q 火曜 4，5 校時の順です。

↓

申込は以下のURLから申し込んでください
https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=gep7LaFPW0qvZ6_-yDjlPgHx8xNtdB9lkvL7lzzpf5hUM1k4M0FYUzVUMFk2OVgxUFFIQzdKQjE1WS4u

長 崎 大 学 経 済 学 部

国際ビジネス領域

○月曜日　４校時開講

令和６年度領域演習指針

教員名：　　工藤　健

課題テーマ	経済学の視点からグローバル経済において直面する課題を分析・考察する
内容と方法	・目的：グローバル経済で各国・地域が直面する課題を，経済理論やデータに基づき分析できるようになること。 (1)多様な資料に基づいて，グローバル経済で各国・地域が直面する課題を見出し，グループ研究のテーマを選定する。 (2)研究テーマに沿って具体的な仮説を提示して，経済分析の方法に基づいて分析・考察する。 (3)グループ研究に基づき課題レポートを作成し，ゼミ内外で発表する。
到達目標	・ゼミのメンバーと協力して，グローバル経済において各国・地域が直面する課題を，経済学の視点から分析・考察できる。 ・上記の分析を課題レポートにまとめ，わかりやすく発表できる。 これらの目標は，おおむね下記の DP に対応している。 DP-4：専門知識を駆使して，現代社会の課題を解決する応用力を身につけている。 DP-5：獲得した知識を駆使して新たな価値を創造するとともに，これを発信する能力を身につけている。 DP7-1：・国際的な枠組みの中で経済，経営，政治，法律を把握・理解する能力を身につけるとともに，国際的諸問題を分析，これを解決する意欲をもっている。 ・外国語によるコミュニケーション力を有するとともに，国際社会の背景にある多様な文化・社会を理解する能力を身につけている。
テキスト	特になし（必要な参考文献はゼミ開始時に指示します）
成績評価の方法と基準	普段の課題の提出状況，プレゼンテーション，課題レポートの内容（形式，論理性，資料探索の質と量）により総合的に評価します。
その他	学部導入科目の「経済概論」「国際関係概論」，学部共通科目の「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「統計学」の内容に触れていることが望ましい。
教員連絡先	tkudo@nagasaki-u.ac.jp

令和６年度領域演習指針

教員名：桑波田　浩之

課題テーマ	長崎の貿易・観光を学ぶ
内容と方法	長崎の貿易・観光についてグループワークを通じて理解を深めます。長崎港は元亀 2 年（1571 年）にポルトガル船が入港し交易を求めたことで開港し、江戸時代には国内で唯一の国際貿易港であった歴史を有します。高度成長期には大型造船施設が建設され、船舶の輸出拠点になりました。2010 年には、長崎港松が枝国際ターミナルが完成し、国内有数のクルーズ客船寄港地として多くの外国人観光客を受け入れています。 長崎港はその歴史の変遷に伴い、外国との商業・文化の窓口、製造業、観光などその役割も変化してきました。この領域演習では、現代の長崎港が抱える課題を 1 つ選び、その解決策についてグループワークを通して考えます。グループワークの内容は、ディスカッション・文献調査・長崎港を所管する長崎港活性化センター(長崎市役所)へのインタビュー調査を予定しています。学期末に国際ビジネス領域の他のゼミとの間で合同の発表会を行います。
到達目標	・専門ゼミで必要となるグループワークの手法や文献調査、インタビュー調査、プレゼンテーションスキルを身に付ける ・長崎の貿易・国際観光に関する知識を培う
テキスト	テキストの指定はありません。必要に応じて適宜、指示します。
成績評価の方法と基準	グループワークへの参加状況、プレゼンテーション等の成果物により総合的に評価を付けます。
その他	初年度となるため、履修者の意向を聞きながら進めていきます。
教員連絡先	教員メールアドレス：kuwahata@nagasaki-u.ac.jp

令和６年度領域演習指針

教員名：Yukie HARA / Masazumi MARUYAMA

課題テーマ	Intercultural Communication and Collaboration
内容と方法	In this era of globalization, the likelihood of collaborating with individuals from diverse cultural backgrounds has significantly increased. Therefore, the emphasis extends beyond merely improving English proficiency to cultivating a heightened awareness of effective communication and collaboration across cultures. This seminar, cofacilitated by two instructors, provides a platform for Japanese and International students to explore opportunities for understanding diverse cultures. Through presentations and discussions, participants delve into various cultural aspects such as money-related habits, societal norms, holidays, perceptions of age and gender differences, and more. Subsequently, students collaborate as a multicultural team in a Project-Based Learning (PBL) setting. Here, they acquire knowledge and skills by investigating and responding to authentic, engaging, and complex questions, problems, or challenges within a real-world globalized or globalizing environment. The seminar unfolds in two main parts: **Part 1: Understanding Cultures** In this segment, students engage in sharing mini-reports and reflections on each cultural topic. The aim is to enhance multicultural understanding. Through active participation in discussions, students not only gain insights into each other's perspectives but also ponder on strategies for effective collaboration in multicultural settings. **Part 2: Multicultural PBL (Project-Based Learning)** Building upon the principles of PBL, students form multicultural teams to collaboratively address real-world challenges vis-à-vis globalization. These challenges are identified within educational institutions (spanning all levels of schools), local businesses, or public institutions such as city offices. The teams embark on a journey of investigation and problem-solving in regard with globalizing the institutions, aiming to gain practical knowledge and skills.

	In essence, the seminar serves as a dynamic platform for students not only to appreciate the richness of diverse cultures but also to actively apply this understanding in a real-world context. Through collaborative efforts, students develop the skills necessary for effective communication and problem-solving in today's interconnected and multicultural environments.
到達目標	After having completed this seminar, you will have: ・Cultivated a mindset and perspectives conducive to effective intercultural collaboration. ・Attained confidence in expressing and exchanging thoughts in English. ・Promoted Empathy and Intercultural Understanding ・Enhanced global problem-solving skills. ・Strengthened collaboration and cooperation abilities. ・Developed research and investigation skills. ・Acquired practical knowledge. ・Improved presentation and communication skills. ・Enhanced project management and planning skills.
テキスト	Materials will be prepared by YOU (it is your input that sparks understandings and discussions in this seminar!) and/or be provided in class (if applicable).
成績評価の方法と基準	• Participation (Discussions/ Group Work)　20 % • Mini-Reports in 'Understanding Cultures'　40% • Project-Based-Learning (Reflections / Presentation / Project Outcome) 40%
その他	This seminar will be conducted in English, specifically adopting the concept of "English as a Lingua Franca" as outlined by Jenkins (2014). In this context, English serves as a shared medium of communication without being confined to any particular variant used in specific speech communities such as the US, UK, Canada, or Australia. Participants are encouraged to employ diverse communication strategies to ensure mutual understanding and effective interaction.
教員連絡先	Yukie HARA at harayukie@nagasaki-u.ac.jp Masazumi MARUYAMA at masazumi@nagasaki-u.ac.jp

○火曜日　４校時開講

令和6年度領域演習指針

教員名： 井田洋子

課題テーマ	長崎外国語大学との共修授業「地域と共生社会」
内容と方法	本演習は、長崎外国語大学の学生（日本語ができる外国人留学生を中心とする）との共修授業である。 【内容】 （１） 長崎外国語大学の教員２名と本学教員１名の計３名による講義 「長崎と外国との関わり」をテーマにフィールドワークに関する事前学習のための講義に加え、歴史的、また現代的観点からの長崎の状況についての講義を行う。 （２） フィールドワーク・プレゼンテーション 上記の講義をもとにして、長崎における歴史や文化に関する痕跡をたどりながら、現在とどのようにかかわりがあるのか、またその意義は何であるのかを探る。そのために、資料調査、実地調査といったフィールドワーク 及びその成果発表としてのプレゼンテーションを行う 【方法】 毎回の授業はZOOMを用いたオンラインによる授業となる。また、フィールドワーク・プレゼンテーション及びそのための準備作業は、両大学の学生による混合グループを作成し、そのグループ単位で行う。
到達目標	１．我々が暮らす長崎についての理解を深めること。 ２．受講生各自が探究心や課題発見、さらには課題解決に向けて努力する姿勢を醸成すること。 ３．受講生が多様な価値観の存在を認識し、かつそれを受容する寛容性を獲得すること。 ４．他者との意見交換ないし議論をする力を身につけること。
テキスト	特に使用しない。
成績評価の方法と基準	最終レポート（個人）３０％、 プレゼンテーション２回（グループ）５０％、 グループ協議シート・フィールドワークシート及び授業への貢献度２０％
その他	自ら積極的に授業に参加する意欲のある学生を求む。
教員連絡先	Mail:smile@nagasaki-u.ac.jp

令和６年度領域演習指針

教員名：　鈴木　崇文

課題テーマ	グローバル化社会の一員として国際的課題を考察する
内容と方法	【内容】 モノ・サービス、お金、人、情報が、頻繁にかつ大量に国境を越えて移動する時代となり、日本と諸外国との関係が多分野において深まっています。本ゼミでは、こうしたグローバル化社会を生きる私たちが直面する世界共通の課題や日本との関係が深い諸外国の状況について、共に考察していきます。 【方法】 １．毎回、テキストの１単元のテーマを取り上げます。 ２．予め決められたゼミ生が、順番に各テーマのテキストの該当箇所を報告し、全員で討議（質疑応答）を行います。 ３．次に、テーマに関連する時事トピックについてグループ別に討議を行い、各グループの代表者が討議結果の発表を行います。 ４．その後、全体での討議（質疑応答）を行います。
到達目標	次の DP を授業到達目標としています。 DP4：専門知識を駆使して、現代社会の課題を解決する応用力を身につけている。 DP5：獲得した知識を駆使して新たな価値を創造するとともに、これを発信する能力を身につけている。 DP7-1：・国際的な枠組みの中で経済、経営、政治、法律を把握・理解する能力を身につけるとともに、国際的諸問題を分析、これを解決する意欲をもっている。 ・外国語によるコミュニケーション力を有するとともに、国際社会の背景にある多様な文化・社会を理解する能力を身につけている。
テキスト	「私たちの国際経済―見つめよう，考えよう，世界のこと（第３版）」 （有斐閣ブックス）
成績評価の方法と基準	自らの報告・発表（40%）、グループ討議への貢献度（30%）、全体討議への貢献度（30%）。
その他	日本を含む世界各国が直面している国際経済上の課題や日本と諸外国との経済的な結びつきについて関心を有する学生を歓迎します。
教員連絡先	E-mail: takafumi.suzuki@nagasaki-u.ac.jp

令和６年度領域演習指針

教員名：島田　章

課題テーマ	国際収支・為替レートとマクロ経済 （平口・稲葉[著]『マクロ経済学』第3版の第9章）を勉強すること。
内容と方法	内容 平口良司・稲葉大[著]『マクロ経済学: 入門の「一歩前」から応用まで』第3版 (有斐閣ストゥディア) 2023年3月刊行の第9章「国際収支・為替レートとマクロ経済」を勉強します。ですから内容は主に、国際収支とは何か、為替レートの決定（主に理論分析）、開放マクロ経済での金融政策の効果（主に理論分析）についてです。 方法 A)全員が授業開始前までに教科書そのものまたは教科書の勉強予定箇所のコピーを自分で用意する。 B)全員が毎週「予習筆記レポート」（紙媒体）を提出する。 C)レポーターはレジュメを用意し、それをつかって報告する。 D)全員で討論する。討論しながら全員ノートをとる。 E)全員に対して中間のまとめ（レポートまたは試験）と期末のまとめ（レポートまたは試験）を課す。
到達目標	DP-3 自分の考えについて、わかりやすく伝え、討論することができる。 DP-4 現代社会の課題に対して、幅広く深い教養、専門領域や隣接領域の知識と高度な応用分析能力を総合して、現実を踏まえた解決と新たな価値の創造を図る能力を身につけることができる。
テキスト	平口良司・稲葉大[著]『マクロ経済学: 入門の「一歩前」から応用まで』第3版 (有斐閣ストゥディア) 2023年3月刊行、ISBN-10:4641151113、ISBN-13:978-4641151116、2,680円（税込、2023年12月時点）。 ※アマゾンのウェブサイト（2023年12月にアクセスした結果です） Amazon.co.jp: マクロ経済学〔第3版〕: 入門の「一歩前」から応用まで（有斐閣ストゥディア）: 平口 良司, 稲葉 大: 本（CTRLを押しながらクリック）
成績評価の方法と基準	「方法」のA)で「全員が授業開始前までに教科書そのものまたは教科書の勉強予定箇所のコピーを自分で用意する」としました。これを守れて全体の（100%の）25%。自分で本を取り寄せたり、コピーをとったりするのは勉強の第一歩です。 「方法」のB)で「全員が毎週「予習筆記レポート」（紙媒体）を提出する」としました。予習筆記レポートが全部で n 回だった場合、予習筆記レポート1回の提出につき1÷ n ×全体の（100%の）25%。提出（紙媒体の本人による提出）が期限よりも遅れた場合、期限から7日以内であれば10%、そ

	れより遅れた場合は0%。予習なしで授業に出ると、ただ授業に出た、ということになってしまいます。 「方法」のC)で「レポーターはレジュメを用意し、それをつかって報告する」としました。割り当てられたレポーターを正当な理由なく怠った（おこたった、サボるという意味）場合、1回につき25点（成績の満点を100点とした場合）減点。「わかった」というのは、「わかった」ことを人に説明できることです。理由なく人に対する説明を避けるのであれば、そのような行いは problematic です。 「方法」のE)で「全員に対して中間のまとめ（レポートまたは試験）と期末のまとめ（レポートまたは試験）を課す」としました。中間のまとめ（レポートまたは試験）を全体の（100%の）25%、期末のまとめ（レポートまたは試験）を全体の（100%の）25%。普段から勉強していれば、どうということはありません。
その他	教科書を実際に手に取ってみて、また上記の説明をよく読んでみて、本当に自分がこの演習に向いているかどうか考えてください。このような演習に向かない人もいます。 「履修届を出しておけば単位がとれる」、「演習の時間に演習室にすわっていれば出席したことになる」などと言うことはありません。この演習ではいわゆる伝統的な「教科書勉強」（教科書を中心に、学生が自分でそれを理解しようとする勉強）が必要です。 勉強することに意味があっても、勉強自体は楽しくありませんし、苦痛かもしれません（少しでも自分でわかるようになれば、勉強も楽しくなります）。
教員連絡先	shimada@nagasaki-u.ac.jp メールを送るときは件名に送信者の名前、学生番号、「R6 年度領域演習」と言う文言（もんごん）、用件（例えば「質問」と言う文言）を書き入れてください。

令和６年度領域演習指針

教員名： 丸山真純

課題テーマ	地域と多文化共生：桃山学院大学とのオンライン共修
内容と方法	本演習は、地域と（多文化）共生社会をテーマとした、大阪の桃山学院大学とのオンライン共修である。授業時間が異なるため 15:00-16:00 にオンラインで両大学を繋いで共修する、14:30-15:00 は共修に伴う準備時間とする（ちなみに、学期期間や授業日も異なる。詳細は以下で確認のこと）。 授業前半期間はそれぞれの地域の共生社会の現状や課題を講義、演習、議論、プレゼンテーション、フィールドワーク（両地域のエスニックタウンや共生の史的地域など）などにて理解を深める。後半は、両大学の混合チームによる共生社会に関する協働プロジェクトを中心に行う。

		長崎大学	合同授業	桃山学院大学
火・４		**14：30〜15：00**	**15：00〜16：00**	**16：00〜16：30**
4 月 9 日	1	オリエンテーション（目標、評価の説明）	（長崎大のみ）	-
4 月 16 日	2	フィールドワークについて	自己紹介 グループワーク「多文化社会について考えること」	オリエンテーション（目標、評価の説明）
4 月 23 日	3	フィールドワーク打ち合わせ	フィールドワーク「地域を歩いて多文化を探そう」の説明、グループ分けと打ち合わせ	フィールドワークの説明の補足
4 月 30 日	-	-	フィールドワーク「地域を歩いて多文化を探そう」の準備作業（桃大のみ）	（つづき）
5 月 7 日	4	フィールドワーク打ち合わせ	グループワーク「多文化社会について考えること」についての教員コメント	フィールドワークの打ち合わせ
5 月 14 日	5	発表準備作業	講義「共生をはばむもの」（小峯）	発表の準備作業
5 月 21 日	6	発表準備作業	フィールドワークの発表、発表後の振り返り	桃大側の振り返り
5 月 28 日	7	長大側振り返り	講義「マイクロアグレッション」（丸山）、講義を踏まえたディスカッション	マイクロアグレッション演習

6月4日	8	マイクロアグレッション演習	講義「多文化共生へ向けて：現状と課題（仮）」（永井）、共同リサーチのグループ分けと打ち合わせ	桃大側のグループごとに発表テーマの下調べ
6月11日	9	発表に関する下調べ	講義「プレゼンテーションの方法」（小峯）、リサーチのテーマ決め・構成・準備方法の説明、グループ作業	桃大のみで準備のつづき
6月18日	10	発表準備	各グループのテーマ・アウトライン・リサーチ方法の報告、グループ作業	桃大のみで準備のつづき
6月25日	11	発表準備	グループ発表の進捗状況を報告（合同）	桃大のみで準備のつづき
7月2日	12	発表準備	グループ発表の準備作業（合同）	桃大のみで準備のつづき
7月9日	13	発表準備	グループ発表の準備作業（合同）	桃大のみで準備のつづき
7月16日	-	-	グループ発表の準備作業（桃大のみ）	（つづき）
7月23日	14	発表準備	グループ発表と総括	桃大のみ総括
7月30日	15	長崎大のみ総括	長崎大のみ総括	-

到達目標	両大学の受講者間でのさまざまなオンライン協働を通じて、以下を達成すること： ・日本社会の多様性を再認識し、それぞれの地域の特性を理解する。 ・それぞれの地域における問題点を発見しその解決策を導き出す力を身につける。 ・ディスカッションや協働作業を通し、多文化社会において必要な、自主性、協調性、コミュニケーションスキルを身につける。
テキスト	Google Classroom や Padlet を通じて配布する
成績評価の方法と基準	最終レポート 30% プレゼンテーション（グループ評価含む）50% その他（コメントシート、参加・貢献度） 20%
その他	桃山学院大学との共同演習授業であり、大学間でのグループワークが大きな役割を持つ。そのため、とりわけ受講生の最低限の責任として、積極的参加が求められることに留意されたい。
教員連絡先	丸山真純（masazumi@nagasaki-u.ac.jp）

令和６年度領域演習指針

教員名：　白水　桂子

課題テーマ	社会言語学入門
内容と方法	[内容] 社会との関わりで，ことばについて考える社会言語学への入門として、いくつかのテーマについて考察する。 [方法] テキストの担当部分（または設定したテーマ）について、各回の担当者によるプレゼン後、全員でディスカッションを行う。
到達目標	経済学部 HP の「受講の手引き（学部）」にあるカリキュラム・マップ」を見てください。領域演習は次の DP を授業到達目標としています。 DP4：専門知識を駆使して，現代社会の課題を解決する応用力を身につけている。 DP5：獲得した知識を駆使して新たな価値を創造するとともに,これを発信する能力を身につけている。 DP7-1：・国際的な枠組みの中で経済,経営,政治,法律を把握・理解する能力を身につけるとともに,国際的諸問題を分析,これを解決する意欲をもっている。 ・外国語によるコミュニケーション力を有するとともに，国際社会の背景にある多様な文化・社会を理解する能力を身につけている。
テキスト	未定（決定次第、受講生に連絡する）
成績評価の方法と基準	報告者としてのプレゼン内容と質疑応答（40%）、報告者ではない回のディスカッションへの貢献度（40%）、課題（20%）によって総合的に評価する。
その他	
教員連絡先	メールアドレス：kuwata@nagasaki-u.ac.jp

〇第２クォーター

月曜日４・５校時開講

令和６年度領域演習指針

教員名：　三輪　加奈

課題テーマ	データから読み解く開発途上国
内容と方法	内容： 開発途上国の開発と発展に関わる様々なデータを観察し、その上で開発途上国の現状と抱える問題への理解を深める。 方法： 「世界開発指標（World Development Indicators）」や、「人間開発指数（Human Development Index）」をはじめ、「ジェンダーギャップ指数」、「世界ガバナンス指標」など、国別・地域別の統計データを用いて、開発途上国について考える。 データとして示されている数値はあくまで「結果」であることから、まずはデータを観察することで見えてくることをまとめ、その上で、データだけではわからないその結果をもたらした各国・地域の背景やプロセス、課題などについて深く掘り下げていく。グループでの作業を中心とし、適宜ゼミ内での報告を求める。 ＊最終週にあたる 7 月 29 日は他の国際ビジネス領域演習との合同発表会を予定している。
到達目標	・世界の開発に関する様々な分野の統計データについて理解を深める。 ・データを考察することで、自分なりの発見をする。 ・開発途上国の現状や抱える問題を正しく理解する力を身につける。
テキスト	指定しない。必要な資料がれば適宜を配布する。
成績評価の方法と基準	グループワークへの取り組み姿勢・貢献度（40 点）＋プレゼンテーション課題（40 点）＋授業への参加度（20 点）＝合計 100 点のうち 60 点以上を合格とする。
その他	数字を見ることが苦ではなく、グループでの活動に積極的・協力的に参加できる学生が望ましい。英語で記された指標を用いることが多い。（演習には必ずパソコンを持参すること。）
教員連絡先	k-miwa@nagasaki-u.ac.jp

令和６年度領域演習指針

教員名：　藤田泰昌

課題テーマ	比較を通して国際関係を考える
内容と方法	国際社会は様々な問題を抱えています。そして、その数だけ考えるべき多くの問いが存在します。たとえば、なぜ多大な犠牲を伴う戦争をするのか。なぜ、戦争を止めるために協力しないのか。なぜ、どのような国同士が良好な関係をもちやすいのか。なぜ同じ二国間でも関係が良い時と悪い時があるのか。気候変動対策に積極的なのはどのような国か（それはなぜか)、等々です。 このような「なぜ」に答えることは、その問題の背後にある因果関係を明らかにすることに他なりません。では、どのような因果関係がその背後にあるのでしょうか。何を示せば、説得力のある形で因果関係を示せるのでしょうか。その１つの方法は、比較することです。 比較を通して国際関係を考える。そのための基礎を身につけることが本ゼミの目的です。この目的に向けて、本ゼミでは以下のような内容と方法を採用する予定です。受講生にとって、負荷の大きいゼミになります。 ① 先行研究を読んで、因果関係に関する基本的なポイントを学ぶ ② ①を踏まえて、国際関係に関する問いについて、グループワークを通して研究を進める ③ ②の成果として、合同発表会で報告を行う
到達目標	最終週には、国際ビジネス領域の複数ゼミによる合同発表会を行います。この発表会で、「おっ」と思われるような研究発表を行うことが目標です。
テキスト	特になし
成績評価の方法と基準	授業参加度 授業やグループワークに向けた準備および貢献度
その他	参考書として、以下を挙げておきます。 ・久米郁男 2013『原因を推論する』有斐閣 ・伊藤修一郎 2022『政策リサーチ入門』東京大学出版会
教員連絡先	fujitatf@nagasaki-u.ac.jp

地域デザイン領域

〇月曜日　４校時開講

令和６年度領域演習指針

教員名： 大角 道子

課題テーマ	解析学を中心に数学に慣れ親しむ
内容と方法	内容: 　解析学は経済学を含む諸分野への幅広い応用可能性を持ちます。本領域演習では今回特にベクトル解析に焦点を当て，問題を自分で解いてみることを通じて理解していく活動を行います。 方法: 　参加者は全員事前に与えられたベクトル解析の問題を解きます．担当者が演習の時間に答案を解説します。答案を作る際は，必要となる定義などを省略せず，他の参加者に伝えられるようなノートを作成するように努めてください。
到達目標	領域演習は次の DP を授業到達目標としています. DP4：専門知識を駆使して，現代社会の課題を解決する応用力を身につけている。 DP5：獲得した知識を駆使して新たな価値を創造するとともに,これを発信する能力を身につけている。 DP7-2： ・現在の経済社会が置かれている現状を的確に把握・理解するとともに,我が国もしくは地域社会の諸問題を分析し,これを解決する意欲をもっている。 ・現代の経済社会及び地域社会の発展に貢献するための能力を身につけている。
テキスト	志賀浩二『ベクトル解析３０講』朝倉書店 寺田文行・福田隆『演習と応用 ベクトル解析』サイエンス社
成績評価の方法と基準	ゼミでの質疑応答(25%)、報告担当者としての解説(25%)、ベクトル解析の問題を解く課題レポート(50%)
その他	
教員連絡先	Email: ohgaku の後に@nagasaki-u.ac.jp を付与。

令和６年度領域演習指針

教員名：　吉沢 裕典

課題テーマ	問題演習を通じてミクロ経済学を理解する
内容と方法	内容： 標準的なミクロ経済学の問題演習を行う．指名された者が担当問題を解いて，他の受講者及び吉沢に向けて問題の解き方について解説を行う．問題演習を通じてミクロ経済学の基礎を理解し，知識の定着を図る． 方法： はじめに，受講者には簡単な自己紹介を行ってもらいます（どの程度の時間をとるかは受講者数で調整します）．その後，問題の担当順を抽選します． 　第２回目からは，指名された担当者が担当箇所について問題を解き，問題の解き方の解説を行ってもらいます．解説方法は板書，レジュメを作成する，プレゼンテーションといったものがありますが，どのような方法を取るかは個々人の自由です．他の受講者は問題解説を単純に聞くだけではなく，適宜担当者の解説に質問し，よりミクロ経済学について理解を深めることが求められます． 　また，最終回には復習を兼ねて，ミクロ経済学のテストを行います
到達目標	経済学部 HP の「受講の手引き（学部）」にあるカリキュラム・マップ」を見てください． 基礎ゼミは次の DP を授業到達目標としています． DP4：専門知識を駆使して，現代社会の課題を解決する応用力を身につけている． DP5：獲得した知識を駆使して新たな価値を創造するとともに，これを発信する能力を身につけている． DP7-2：・現在の経済社会が置かれている現状を的確に把握・理解するとともに，我が国もしくは地域社会の諸問題を分析し，これを解決する意欲をもっている． ・現代の経済社会及び地域社会の発展に貢献するための能力を身につけている．
テキスト	神取 道宏（2018）『ミクロ経済学の技』日本評論社 を予定しているが，受講者から希望があれば，それを用いることもある．
成績評価の方法と基準	ゼミへの貢献（60%），テスト（40%）．なお，出席回数が 2/3 に達しない者については，成績評価を行わず失格とする． ゼミへの貢献の詳細 積極的なゼミナール活動への参加，担当問題について詳細に解説を行うこと，関連事項の解説や，担当者への質問状況を鑑みて総合的に評価する．
その他	問題解説には準備にかなり時間を掛ける必要があるので注意すること．
教員連絡先	yoshizawa▲nagasaki-u.ac.jp（送信の際は▲を@に変えてください.）

○火曜日　４校時開講

令和６年度領域演習指針

教員名：井 畑　陽 平

課題テーマ	地域社会の持続可能性と地域企業・地域政策
内容と方法	＜内容＞ 地域社会の持続可能性という観点から、地域における企業や政策のあり方について検討します。 ＜方法＞ ●5 名の担当教員（宍倉学・森保洋・井畑陽平・加藤隆宏・山口純哉）が合同で開講する。 ●ゼミメンバーの顔合わせ（1 回・各ゼミ）、地方自治体や商工団体などによる地域社会の現状や問題にかかる話題提供（3 回・合同）、地域社会の現状把握や問題解決にかかるグループ学習（9 回・各ゼミ）、学習成果のプレゼンテーション（2 回・合同）を実施する。 ●グループ学習においては、地方自治体等による話題提供を踏まえて、上記の＜内容＞の視点からテーマを設定する。
到達目標	DP4：専門知識を駆使して，現代社会の課題を解決する応用力を身につけている。 DP5：獲得した知識を駆使して新たな価値を創造するとともに,これを発信する能力を身につけている。 DP7-2：・現在の経済社会が置かれている現状を的確に把握・理解するとともに,我が国もしくは地域社会の諸問題を分析し,これを解決する意欲をもっている。 ・現代の経済社会及び地域社会の発展に貢献するための能力を身につけている。
テキスト	必要に応じて指示する。
成績評価の方法と基準	ゼミナールやグループにおける日々の学習態度や最終プレゼンテーションによって総合的に評価する。
その他	
教員連絡先	ibata@nagasaki-u.ac.jp

令和６年度領域演習指針

教員名：宍倉　学

課題テーマ	地域社会の持続可能性と地域企業・地域政策
内容と方法	＜内容＞ 地域社会の持続可能性という観点から、地域における企業や政策のあり方について検討します。本演習では、特に地方政府の役割や地方財政の点から検討を行う予定です。 ＜方法＞ ●5 名の担当教員（宍倉学・森保洋・井畑陽平・加藤隆宏・山口純哉）が合同で開講する。 ●ゼミメンバーの顔合わせ（1 回・各ゼミ）、地方自治体や商工団体などによる地域社会の現状や問題にかかる話題提供（3 回・合同）、地域社会の現状把握や問題解決にかかるグループ学習（9 回・各ゼミ）、学習成果のプレゼンテーション（2 回・合同）を実施する。 ●グループ学習においては、地方自治体等による話題提供を踏まえて、上記の＜内容＞の視点からテーマを設定する。
到達目標	DP4：専門知識を駆使して，現代社会の課題を解決する応用力を身につけている。 DP5：獲得した知識を駆使して新たな価値を創造するとともに,これを発信する能力を身につけている。 DP7-2：・現在の経済社会が置かれている現状を的確に把握・理解するとともに,我が国もしくは地域社会の諸問題を分析し,これを解決する意欲をもっている。 ・現代の経済社会及び地域社会の発展に貢献するための能力を身につけている。
テキスト	必要に応じて指示する。
成績評価の方法と基準	ゼミナールやグループにおける日々の学習態度や最終プレゼンテーションによって総合的に評価する。
その他	地方公共団体の財政状況などに興味を持っていることが望ましいです。
教員連絡先	shishi@nagasaki-u.ac.jp

令和６年度領域演習指針

教員名：森保　洋

課題テーマ	地域社会の持続可能性と地域企業・地域政策
内容と方法	＜内容＞ 地域社会の持続可能性という観点から、地域における企業や政策のあり方について検討します。 ＜方法＞ ●5 名の担当教員（宍倉学・森保洋・井畑陽平・加藤隆宏・山口純哉）が合同で開講する。 ●ゼミメンバーの顔合わせ（1 回・各ゼミ）、地方自治体や商工団体などによる地域社会の現状や問題にかかる話題提供（3 回・合同）、地域社会の現状把握や問題解決にかかるグループ学習（9 回・各ゼミ）、学習成果のプレゼンテーション（2 回・合同）を実施する。 ●グループ学習においては、地方自治体等による話題提供を踏まえて、上記の＜内容＞の視点からテーマを設定する。 ●森保担当ゼミでは、EBPM の観点からデータ分析を用いた現状把握・問題解決を目指します。RESAS 等のデータベースを用い、統計ソフト R を用いたデータ分析を行う予定です。
到達目標	DP4：専門知識を駆使して，現代社会の課題を解決する応用力を身につけている。 DP5：獲得した知識を駆使して新たな価値を創造するとともに,これを発信する能力を身につけている。 DP7-2：・現在の経済社会が置かれている現状を的確に把握・理解するとともに,我が国もしくは地域社会の諸問題を分析し,これを解決する意欲をもっている。 ・現代の経済社会及び地域社会の発展に貢献するための能力を身につけている。
テキスト	必要に応じて指示する。
成績評価の方法と基準	ゼミナールやグループにおける日々の学習態度や最終プレゼンテーションによって総合的に評価する。
その他	統計学やプログラミングについての事前知識は不要ですが、データ分析に興味がある学生さんを歓迎します。
教員連絡先	moriyasu@nagasaki-u.ac.jp

令和６年度領域演習指針

教員名：　加藤　隆宏

課題テーマ	地域社会の持続可能性と地域企業・地域政策
内容と方法	＜内容＞ 地域社会の持続可能性という観点から、税財政を中心に地域における行政や企業のあり方について検討・提言する。 ＜方法＞ ●5 名の担当教員（宍倉学・森保洋・井畑洋平・加藤隆宏・山口純哉）が合同で開講する。 ●ゼミメンバーの顔合わせ（1 回・各ゼミ）、地方自治体や商工団体などによる地域社会の現状や問題にかかる話題提供（3 回・合同）、地域社会の現状把握や問題解決にかかるグループ学習（9 回・各ゼミ）、学習成果のプレゼンテーション（2 回・合同）を実施する。 ●グループ学習においては、地方自治体等による話題提供を踏まえて、上記の＜内容＞の視点からテーマを設定する。
到達目標	DP4：専門知識を駆使して，現代社会の課題を解決する応用力を身につけている。 DP5：獲得した知識を駆使して新たな価値を創造するとともに,これを発信する能力を身につけている。 DP7-2：・現在の経済社会が置かれている現状を的確に把握・理解するとともに,我が国もしくは地域社会の諸問題を分析し,これを解決する意欲をもっている。 ・現代の経済社会及び地域社会の発展に貢献するための能力を身につけている。
テキスト	必要に応じて指示する。
成績評価の方法と基準	授業中やグループ演習での貢献度、最終プレゼンテーションの内容等によって総合的に評価する。
その他	
教員連絡先	takahiro.kato▲nagasaki-u.ac.jp （メール送信時は▲を@に変更してください）

令和６年度領域演習指針

教員名：　南森茂太

課題テーマ	グラバー園を歩く、学ぶ、そして伝える
内容と方法	【内容】 長崎は元亀２年(1571)に最初の開港を経験し，安政６年（1859）に修好通商条約による２度目の開港を経験します。この２度目の開港のとき、条約に基づいて居留地が整備され始め、海岸通りには商館などが、山手には住宅、学校、教会などが建設されます。平成 27 年（2015）に世界文化遺産に登録されたグラバー住宅もこの幕末期、すなわち文久 3 年(1863)に建築されました。グラバー園にはこのグラバー住宅を含む幕末・明治期の建造物が保存・管理されており、毎年多くの観光客が同地を訪れます。令和 6 年度の基礎演習ではグラバー園を歩き，学び，その学習成果をガイドとして伝えることに取り組みます。 【方法】 (1)グラバー住宅を実際に歩く。 (2)班ごとに居留地に関する文献を読み、グラバー園を構成する建築物やそこで暮らしたひとびとについて学ぶ。 (3)グラバー園のガイドを実際に体験し、学習成果を伝える。 ※なお、ガイド体験は 9 月(日時未定)におこないます。成績評価後ですが、そのような区切りにとらわれることなく、学びに意欲のある人を募集します。
到達目標	経済学部 HP の「受講の手引き（学部)」にあるカリキュラム・マップ」を見てください。領域演習は次の DP を授業到達目標としています。 専門知識を駆使して，現代社会の課題を解決する応用力を身につけている。 獲得した知識を駆使して新たな価値を創造するとともに,これを発信する能力を身につけている。 現在の経済社会が置かれている現状を的確に把握・理解するとともに,我が国もしくは地域社会の諸問題を分析し,これを解決する意欲をもっている。 現代の経済社会及び地域社会の発展に貢献するための能力を身につけている。
テキスト	購入の必要はありません。長崎大学附属図書館が所蔵する『新長崎市史』第 2 巻、第３巻などを読み、グラバー園への理解を深めます、
成績評価の方法と基準	ゼミへの参加意欲やプレゼンの良否などから判断します。
その他	長崎が大好き，歴史が大好きという方，ぜひ一緒に学びましょう！！
教員連絡先	shigeta373mori@nagasaki-u.ac.jp

令和６年度領域演習指針

教員名：山口純哉

課題テーマ	地域社会の持続可能性と地域企業・地域政策
内容と方法	＜内容＞ 地域社会の持続可能性という観点から、地域における企業や政策のあり方について検討します。 ＜方法＞ ●5 名の担当教員（宍倉学・森保洋・井畑陽平・加藤隆宏・山口純哉）が合同で開講する。 ●ゼミメンバーの顔合わせ（1 回・各ゼミ）、地方自治体や商工団体などによる地域社会の現状や問題にかかる話題提供（3 回・合同）、地域社会の現状把握や問題解決にかかるグループ学習（9 回・各ゼミ）、学習成果のプレゼンテーション（2 回・合同）を実施する。 ●グループ学習においては、地方自治体等による話題提供を踏まえて、上記の＜内容＞の視点からテーマを設定する。
到達目標	DP4：専門知識を駆使して，現代社会の課題を解決する応用力を身につけている。 DP5：獲得した知識を駆使して新たな価値を創造するとともに,これを発信する能力を身につけている。 DP7-2：・現在の経済社会が置かれている現状を的確に把握・理解するとともに,我が国もしくは地域社会の諸問題を分析し,これを解決する意欲をもっている。 ・現代の経済社会及び地域社会の発展に貢献するための能力を身につけている。
テキスト	必要に応じて指示する。
成績評価の方法と基準	ゼミナールやグループにおける日々の学習態度や最終プレゼンテーションによって総合的に評価する。
その他	
教員連絡先	junya-y@nagasaki-u.ac.jp

令和６年度領域演習指針

教員名：式見拓仙、神薗健次

課題テーマ	微分と積分
内容と方法	統計学，経済学，計量経済学を学ぶためには微分，積分、線形代数、集合論、位相、確率論などの多岐にわたる数学的素養が求められる。この演習ではそれらのうち微分と積分を取り上げ、中級レベルのテキストを一冊決めて輪読形式で読み進んでいく。事前に指定された範囲を担当学生が予習して、受講生に講ずる。また、練習問題に取り組んでもらうこともある。
到達目標	① 現代経済社会に関する幅広い知識とそれらを駆使した思考方法・技術を身につけることができる。 ② 自分の考えについて、わかりやすく伝え、討論することができる。 ③ 現代経済社会の課題に対して、専門領域や隣接領域の知識と高度な応用分析能力を総合して、現実を踏まえた解決と新たな価値の創造を図る能力を身につけることができる。
テキスト	初回の演習で指定する。
成績評価の方法と基準	ゼミへの貢献(60%)と試験(40%)によって評価する。ゼミへの貢献度は以下のような点を考慮して総合的に判断する。 ＊ 演習に積極的に参加しているか。 ＊ 担当者は十分に準備をして受講生にわかりやすく解説をしているか。 ＊ 不明な点があれば積極的に質疑することによって理解しようとしているか。 なお、出席回数が３分の２に達しない受講生は失格とする。
その他	参加者は「経済数学入門」の単位を取得していること。 予習・復習に十分時間を割かない限り理解は覚束ない。
教員連絡先	式見拓仙：shikimi@nagasaki-u.ac.jp 神薗健次：k-kamiz@nagasaki-u.ac.jp

〇第２クォーター

火曜日４・５校時開講

令和６年度領域演習指針

教員名：　林　　徹

課題テーマ	不動産経営の基礎
内容と方法	（内容）不動産経営（地主，駐車場・倉庫・工場・商業ビル・アパート・マンションのオーナー，借地権者，転貸人，マンション建替組合，ディベロッパー，その他。ただし，宅地建物取引業，不動産管理業を除く。）の立場から地域デザインを具体的・歴史的・論理的に考える。 （方法）第 1 に，具体的な物件を取り上げて，登記情報検索，法令上の制限の確認，現地検分・近隣調査，などを行い，投資対象候補を多角的・多面的に検討する。第 2 に，名古屋市中心部など都市開発が比較的うまくいっている地域，または，坂の多い港で有名な，横浜，神戸，函館，リスボン，サンフランシスコ，モナコなどと，長崎地域の比較を行う。第 3 に，資産運用のタイミングや交渉について，ボードゲーム（紙媒体のモノポリー）を通じて学びあう。
到達目標	地域デザイン領域 DP4：専門知識を駆使して，現代社会の課題を解決する応用力を身につけている。DP5：獲得した知識を駆使して新たな価値を創造するとともに,これを発信する能力を身につけている。DP7-2：・現在の経済社会が置かれている現状を的確に把握・理解するとともに,我が国もしくは地域社会の諸問題を分析し,これを解決する意欲をもっている。・現代の経済社会及び地域社会の発展に貢献するための能力を身につけている。
テキスト	林徹（2023）『モノポリーで学ぶビジネスの基礎（第 3 版）』中央経済社。
成績評価の方法と基準	特定の物件調査レポート（30%），都市間比較研究レポート（30%），ゲーム対戦への参加（40%），による。
その他	近年における浸水や津波の被災地を事例として取り上げて，ハザードマップに反して，あたかも先人からの警告を無視したかと思われるような法令上の制限緩和の実態を調査・研究することもありうる。 上記の「内容と方法」は例示であり，到達目標の範囲内で，受講者諸君と話し合って柔軟に決めたい。「経営概論」履修済みが望ましい。
教員連絡先	thaya@nagasaki-u.ac.jp

令和６年度領域演習指針

教員名：今仁裕輔・式見雅代合同ゼミ

課題テーマ	経済学におけるデータ分析入門
内容と方法	本ゼミは今仁ゼミ・式見 (雅)ゼミの合同で実施する。ゼミの前半 (第 2-8 回) では、経済学で用いられるデータ分析の手法に関するテキストの輪読を行う。ゼミの後半 (第 9-15 回) では、プログラミング言語 (R を予定) を学び、ゼミの前半で扱った実証分析の手法を実装する。 ゼミは毎回 2-3 人程度の受講者の報告及びディスカッションを中心に進行する。
到達目標	(1) 経済学で使われているデータ分析の基礎的な手法がどのような前提の下で用いられているかを理解する。 (2) 適切なデータセットが存在するという前提の下で、学んだ分析手法を実装することができる。 (3) 資料作成・プレゼンテーションの方法を実践的に理解する。
テキスト	前半：「原因と結果」の経済学 ：データから真実を見抜く思考法、中室牧子・津川友介著、2017 後半：効果検証入門-正しい比較のための因果推論/計量経済学の基礎、安井翔太・株式会社ホクソエム、2020
成績評価の方法と基準	前半：プレゼンとディスカッション 50% 後半；プレゼンとディスカッション 50%
その他	プログラミングの学習にノートパソコンが必要になるため、持参すること。
教員連絡先	今仁：y_imani@nagasaki-u.ac.jp 式見：mshikimi@nagasaki-u.ac.jp

社会イノベーション領域

○月曜日　４校時開講

令和６年度領域演習指針

教員名：　岡　田　裕　正

課題テーマ	会計学入門
内容と方法	【内容】 本演習では、会計の多様な側面（財務会計と管理会計、企業会計と公会計、監査、歴史、CSR など）のさわりを学習します。 「経済活動あるところ会計あり」と言われることがあります。社会イノベーション領域の皆さんがどこに就職しても、そこには会計があること、それは記録に基づく損益計算だけではないこと、それは歴史的に不変ではないこと、新たな課題に対応して変化すること、人間関係の維持再生産に役立つことなど、ざっくりと分かってほしいと思います。 【方法】 テキストは全 13 章から構成されています。毎回のゼミでは、毎回 1 章ずつ、あらかじめきめられた担当者が報告し、それについて全員で質疑をしてもらいます。 報告者は、テキストの記載内容をまとめるだけではなく、各自不明な点などをしらべてきて、わかりやすく他のゼミ生に話すように努めてもらいます。したがって、報告者は、パワーポイントやレジュメを作成してもらいます。なお、毎回の報告は 2～3 名程度のグループで行う予定です。 また、ゼミの最終回までに、テキストの中から自分が関心を持った章（必ずしも担当した章でなくても良いです）について、各人がレポートを作成し、提出してもらいます。
到達目標	下記テキストのタイトルが示すように、本演習は、会計学の初学者を対象としています。その内容は多岐にわたります。それぞれの項目の詳細がわかるものではありませんが、これらについて、自分の言葉で説明できるようになることを目標とします。
テキスト	吉見宏編著『ビギナーズ会計学』中央経済社￥2,400（税別）
成績評価の方法と基準	最終提出レポート（50%） ゼミでの発表や質疑応答（50%）
その他	この演習は、簿記検定などの資格試験を目的とした人を対象としたものではありません。上記の通り、初学者（これから会計学を学ぼうと考えている人や会計学とはどのようなものか関心を持つ人）を対象としています。 なお、欠席するときは必ず連絡をしてください。
教員連絡先	h-okada@nagasaki-u.ac.jp

令和６年度領域演習指針

教員名：　　鈴木　　斉

課題テーマ	プログラミング入門
内容と方法	初年次セミナーと３年次の専門ゼミの橋渡しとして位置づけられ、論理的思考能力の涵養を目的としている。学生相互、学生と教員とのコミュニケーションを通じて，主体的な学習態度を身に着ける。 本演習では、**必携 PC を使用し**、2～3 名によるチームでのグループワークにてプログラミング言語 Scratch による簡単なゲームプログラミングと、ハードウェア（LEGO Mindstorms EV3）制御を学修します。第 1 回目に簡単な講義方法の説明を行い、自己紹介を行ってもらい 2～3 名によるチームを作成します。第 3 回以降の演習では 2 グループ程度による前回の課題解決方法に関する発表、新しい課題内容の発表、グループ内での課題解決方法の検討、各人による課題解決、グループ内での検証作業、及び次回以降の回に行うプレゼンテーションの準備を行うことで論理的思考、プレゼンテーション、及びディスカッション能力の向上を目指します。
到達目標	経済学部 HP の「受講の手引き（学部)」にあるカリキュラム・マップ」を見てください。領域演習は次の DP を授業到達目標としています。 DP4：専門知識を駆使して，現代社会の課題を解決する応用力を身につけている。 DP5：獲得した知識を駆使して新たな価値を創造するとともに,これを発信する能力を身につけている。 DP7-3：・企業の構造や行動，経営管理の諸側面，経営の歴史に関する知識を修得している。 ・複雑で急速な経済社会の変化に対して,自主的・積極的に対応し，新たな価値を創造する能力を身につけている。 具体的には、コンピュータの基本的な動作原理やコンピュータネットワークの仕組みについて自分の言葉で説明し、その問題点について指摘や、その改善方法について討論することができるようになることを授業到達目標としています。
テキスト	テキストは使用しません。参考図書として、倉本 大資（著)，阿部 和広(監修)「小学生からはじめるわくわくプログラミング 2 Scratch 3.0 版」日経 BP 社（ISBN: 978-4-8222-8620-0）を挙げておきます。
成績評価の方法と基準	課題への取り組み方(40%)、主体的・積極的な演習への参加態度(20%)、報告やプレゼンテーション(40%) をもとに総合的に判断します。
その他	**必携 PC を使用する講義を行います。**演習開始時点でコンピュータを扱う技能を習熟している必要はありませんが、使用に抵抗感を持たないこと、通常以上の努力・精進ができることは要求します。質問等はメール等でお問い合わせください。
教員連絡先	sigh@nagasaki-u.ac.jp 095-820-6372 (研究室)

○火曜日　４校時開講

令和６年度領域演習指針

教員名：小野　哲

課題テーマ	経営分析入門
内容と方法	【内容】 ビジネスにおいては、お金の流れや会社の状態を把握することが重要です。そのために不可欠な会計の知識として、この授業ではまず財務３表（損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書）の基本的な中身について学びます。つぎに経営指標などの内容を理解したうえで、受講生が任意に会社を選択し、経営分析（財務諸表分析）によって選択した会社の経営内容を診断し、その結果についてプレゼンを行ってもらいます。 【方法】 まずテキストの輪読を行います。輪読においては報告者が担当箇所についてスライド等でレジメを作成し、それに基づく報告によりディスカッションを行っていきます。また学習テーマの区切り段階では、理解度把握のための小テストも実施します。テキストの輪読が終わったら、各自が選択した企業についての分析に着手し、最終的に各人が行った分析の結果についてスライド等を利用したプレゼンを実施します。なお授業回の内容によっては、適宜リアルタイム・オンライン形式を採用する場合もあります。
到達目標	①　現代社会に関する幅広い知識とそれらを駆使した思考方法・技術を身につけることができる。 ②　自分の考えについて、わかりやすく伝え、討論することができる。 ③　現代社会の課題に対して、専門領域や隣接領域の知識と高度な応用分析能力を総合して、現実を踏まえた解決と新たな価値の創造を図る能力を身につけている。
テキスト	林 總『会社の数字が面白いほどわかる「財務３表」入門』三笠書房の「はじめに・プロローグ、第１章、第２章、第３章」を使用予定。ただし同書が絶版になったため、受講生は第 1 回目の授業開始前までに教員のメールアドレスへ、件名に番号・氏名を明記し、「経営分析入門の教科書」と書いたメールを送信し、教員からの返信メールに添付された該当箇所のファイルを入手するようにしてください。その際 LACS は利用しないこと。
成績評価の方法と基準	報告者による報告（25%）、ゼミでの質疑・応答（20%）、小テスト（５%）、最終プレゼン（50%）
その他	財務 3 表は、有価証券報告書等の開示種類に関する電子開示システム（EDINET：https://disclousure.edinet-fsa.go.jp/）で入手することができます。使い方はトップページの「種類検索」をクリックし、次画面の「提出者／発行者／ファンド」の欄に会社名を入力し、「検索」をクリックします。また任意の会社のＨＰを選択し、「株主のみなさんへ」とか「ＩＲ資料室」などのバナーをクリックしても参照することができます。
教員連絡先	onotetsu@nagasaki-u.ac.jp

令和６年度領域演習指針

教員名：　林　麗桂

課題テーマ	「組織」で働く自分と他者の心理や行動について、行動分析学の視点から理解を深める
内容と方法	**内容** 　指定したテキストを基に、「組織」で働く自分と他者の心理や行動について、具体例（ケース）を見ながら、行動分析学の視点から理解を深める。 **方法** 　指定テキストの担当部分を割振り、各回報告者による報告の後、全員による討論を行う。
到達目標	■　専門知識を駆使して、現代社会の課題を解決する応用力を身につけている。 ■　獲得した知識を駆使して新たな価値を創造するとともに、これを発信する能力を身につけている。 ■　①企業の構造や行動、経営管理の諸側面、経営の歴史に関する知識を修得している。 ②複雑で急速な経済社会の変化に対して、自主的・積極的に対応し、新たな価値を創造する能力を身につけている。
テキスト	舞田竜宣・杉山尚子（2008）『人と組織を変える方法論：行動分析学マネジメント』．日本経済新聞出版社
成績評価の方法と基準	出席状況、課題への取り組み、主体的・積極的なゼミへの参加態度、報告やプレゼンテーション等総合的に判断する。アウトプットの成果（テキスト要約レポート提出状況、演習における適切なコメント等）を、評定にあたり最重要視するので、念のため、申し添える。 　他にも、①報告後の討論において発言しない、②欠席等により割り当てたられた報告をしない、③ 正当な理由のない欠席が重なるなどは、歓迎されない。
その他	組織行動、組織学習および個人の学習行動に興味を持ち、主体的に学びたいという学生の応募を期待する。
教員連絡先	linty1210▲nagasaki-u.ac.jp（▲を＠に変えてください）。本ゼミの履修に関して不安なことや質問がある場合は、上記メールアドレスにご連絡ください。

〇第２クォーター

火曜日４・５校時開講

令和６年度領域演習指針

教員名：　　徐　　陽

課題テーマ	会計学エッセンス
内容と方法	【内容】 1年生で受講した簿記授業の復習を踏まえ、はじめて会計学を学ぶ人を対象とし、広く会計学全般を身近に感じることができるように、会計の役割とその仕組みについて学ぶすることを目的とします。この目的のために、下記テキストに沿って、財務諸表の構成、財務諸表作成の基礎、原価計算、公認会計士監査のフレームワークに出てくる基本的な項目の意味やそこに記載される金額の決め方などを学びます。 【方法】 テキストを輪読することとし、事前に担当者を決めて、毎回の内容をまとめるだけでなく、不明な点を各自で調べてきて、分かりやすく報告するように努めてもらいます。報告はパワーポイント等を用いてプレゼンテーションの形式で行い、それについて全員で質疑をしてもらいます。なお、毎回の報告者は複数名の予定です。 また、使用予定のテキストには、ポイント（練習問題）がついているので、その解答についても全員で検討してもらいます。最後、レポートとして提出してもらいます。
到達目標	領域演習は次の DP を授業到達目標としています。 DP4：専門知識を駆使して，現代社会の課題を解決する応用力を身につけている。 DP5：獲得した知識を駆使して新たな価値を創造するとともに,これを発信する能力を身につけている。 DP7-3：・企業の構造や行動，経営管理の諸側面，経営の歴史に関する知識を修得している。 ・複雑で急速な経済社会の変化に対して,自主的・積極的に対応し，新たな価値を創造する能力を身につけている。
テキスト	千代太田邦夫著『新版 会計学入門〈第７版〉』　中央経済社，2022 年
成績評価の方法と基準	レポート（50％） ゼミでの発表や質疑応答（50％）
その他	1 年生で学習した簿記3級程度の知識を前提にします。必要に応じて、仕訳をしてもらうことがあるので、知識を確実に持っていることを望みます。また、質疑を活発に行うため、事前の予習と復習を必要とします。 なお、欠席するときは必ず連絡をしてください。
教員連絡先	E-mail：jxuyang@nagasaki-u.ac.jp

令和６年度領域演習指針

教員名：　宇　都　宮　　譲

課題テーマ	R で作図
内容と方法	本演習は、R を用いて学術論文に掲載される各種グラフを作成できるようになることを目的とする。 R は無料で使える統計解析環境である。科学の世界において、デファクト・スタンダードとされるソフトウェアとされる。各国政府や国際団体が提供するデータや、企業経営に関わる調査結果を視覚化するにも有力な道具である。 諸君は R と必携 PC を用いて、教科書にあるさまざまなグラフを描く練習に取り組む。特に、時系列データに頻用する折れ線グラフ、1 変量に関する分布を表現する密度プロット、および 2 変量間にある関係を表現する散布図に着目する。 毎週繰り返す手順は、以下に示す通りである。 1. 毎週指定箇所を予習 2. わからないことがあれば尋ねる 3. 出題する応用問題をこなす：「賃金構造基本統計調査」等わが国官公庁が提供する公的統計データおよび教育用データセットを用いる。
到達目標	● R を用いて作図できる ● 学術論文掲載に堪えられるグラフを作成できる
テキスト	Chang, Winston. (2923). *R Graphics Cookbook* (2nd. Ed.). CRC Press. 上記文献と同一内容が公開されるサイト（https://r-graphics.org/preface）内容を参照しても差し支えない。
成績評価の方法と基準	7 月に出題する課題が、以下 3 要件を満たすかどうかに基づいて評価する。 ● 学術論文にみられる標準的なフォーマットを満たすか。 ● カラーユニバーサルデザインを構成する配色かどうか。 ● 要求する情報が含まれるか
その他	● 新型コロナウイルスなど感染症にかかった場合を除いて、欠席は認めない。コードを書く作業を蓄積することが重要だからである。 ● 必携 PC を使用する。充電して教室に持参すること。 ● R を使う環境は、当方にて準備する。諸君が使う必携 PC に、VPN を用いるソフトウェアをインストールして参加すること。 ● 本演習において取り扱うグラフに関連する重要な概念を学ぶために、「統計学 I・II」を必ず受講すること。
教員連絡先	宇都宮　譲（うつのみや　ゆずる） Email: yuzuru@nagasaki-u.ac.jp

令和６年度領域演習指針

教員名：　　林川　万理水

課題テーマ	企業情報開示システムのイノベーション
内容と方法	企業の情報開示は、財務情報を中心として、内容・量・開示方法が多様化している現状がある。当領域ゼミでは、広く企業情報開示の意義を理解し、意思決定に欠かせない信頼性の高い適正な開示について考察を行う。 （１）基礎テキストを用いて企業情報開示の機能的意義を理解し、現行の開示手段の妥当性を検討する。 （２）監査を含む一連の企業の情報開示行動のケースを考察し、問題分析と理想の開示システムについて議論を行う。 （３）創造した理想のシステムの実行可能性を検証する手段として、社会科学研究において行動実験がもつ役割を理解する。 （４）演習を行う。 上記（１）～（４）について、ゼミ前半にテキスト理解を深めるプレゼンを輪番制で行い問題を共有する。ゼミ後半には、教員が提供する教材を使って問題解決へ向かう思考や研究手法について考察を行いながら社会にイノベーションを起こすとはいかなることかを議論する。
到達目標	企業情報開示の意義を理解し、現行制度の問題を的確に指摘できるようになる。さらに、問題解決のための議論の作法を学ぶ。
テキスト	内藤文雄『会計学エッセンス　第５版』中央経済社、2022 年。
成績評価の方法と基準	プレゼンテーションとディスカッションの内容、その他のゼミ中のワークの成果で評価する。その他詳細は、初回ゼミで開示する。
その他	
教員連絡先	hmiyuki@nagasaki-u.ac.jp

令和６年度領域演習指針

教員名：西村・津留崎・木村・高井・辺見

課題テーマ	実践を通じた課題発見力・価値創造力の涵養
内容と方法	この領域演習は、県内事業者等とコラボレーションし、現場に存在する事象や課題に対して、その原因抽出や解決策模索を目的に、プロジェクト・リテラシーで学修したインタビュー調査やアンケート調査、他地域や他企業の事例やベンチマーク調査を設計・実施・分析を行い、それらの結果を事業者に対してプレゼンテーションする。 ■ 西村・津留崎・木村・高井・辺見の 5 クラス合同にて実施する ■ 募集はクラス単位ごとではなく、5 クラス一括での募集となる ■ 開講は第 2 クォーターであり、第 1 クォーターで開講するプロジェクト・リテラシーの履修を必須とする ■ すべて対面形式で開講し、活動は 4 名ほどのチームを編成して行う
到達目標	■ DP4：専門知識を駆使して、現代社会の課題を解決する応用力を身につけている ■ DP5：獲得した知識を駆使して新たな価値を創造するとともに、これを発信する能力を身につけている ■ DP7-3：複雑で急速な経済社会の変化に対して、自主的・積極的に対応し、新たな価値を創造する能力を身につけている
テキスト	特になし
成績評価の方法と基準	平素の学修態度、チームへの貢献、プロジェクト・リテラシーでの知識の活用、最終プレゼンテーションを総合的に評価する
その他	■ 活動内容によっては、受講生と調整の上、時間割に定められた時間以外での活動もあり得る ■ 学外での活動も伴う可能性があるため、受講が確定した場合は、学生教育研究災害傷害保険（学研災）、および学研災付帯賠償責任保険の加入を義務付ける（大学 HP 内で「学生教育研究災害傷害保険」と検索） ■ 第 3 クォーターのビジネス・リサーチ履修、および 3 年次の専門ゼミで「実践型のゼミ」（津留崎・木村・高井・辺見を予定）を検討している人は本領域演習の受講を勧める
教員連絡先	■ 西村：nishimra@nagasaki-u.ac.jp ■ 津留崎：turusaki@nagasaki-u.ac.jp ■ 木村：mkimura@nagasaki-u.ac.jp ■ 高井：kegotak@nagasaki-u.ac.jp ■ 辺見：hidetaka.hemmi@nagasaki-u.ac.jp